

Vol.
16

藻場を測る

2022/4/25 自然環境部 海域担当チーム 筒井 浩之

北海道もすっかり春になり、今回の藻場通信がホームページに掲載される頃には、エコニクスの本社がある札幌も、桜がきれいに咲いている頃かと思えます。

写真は、4月19日の函館の水中ライブカメラ前の映像です。施設に生えているコンブはかなり大きくなっているようです(図1上)。今年は施設を増設していますが([Vol.13](#)をご覧ください)、隣に増設した施設にもたくさんのコンブが生えました(図1下、左が増設した施設)。



図1 ライブカメラ前の様子(2022年4月18日)

このように、コンブを増やししていくことができると考えています。そして、これらの施設に生えたコンブの子供たちが、周囲に大きな藻場を作ってくれることを期待しています。

藻場を広げる技術開発をする一方で、広げた藻場を評価する手法についても検討しています。

藻場調査では、潜水による目視や坪狩り調査が一般的に行われています(図2左上)。この方法は海藻の種類や被度などを正確に把握することができますが、広い範囲の調査を行うには多大な労力が必要です。そこで、ドローンを使った空撮調査(図2右上)や、音響(魚群探知機)の使用(図2下)も検討しています。まだ課題もありますが、より速く、正確に藻場を把握する技術開発を進めています。

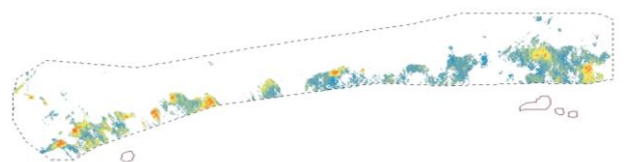
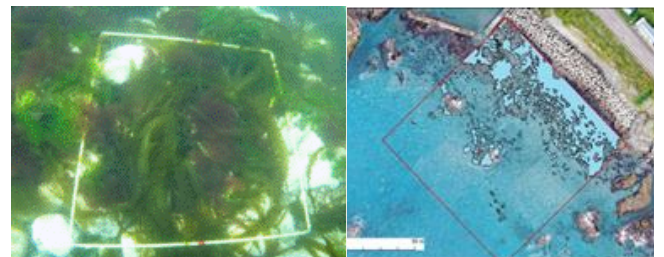


図2 藻場調査の例